

「文化」の反対語は？

文系と理系の方への問題集

2022/04/17 復活祭



Gabrielle Émilie Le Tonnelier de Breteuil, marquise du Châtelet
1706-1749

さあ、ここで、「問題」です — 「文化」の反対語はなんですか？ 「理系・文系」と言われるように、「文化」の反対語は、「理科」、すなわち、「科学」です — って？ いえ、そうではありません。では、「文化文明」といわれるように、「文化」の反対語は、未文化の状態の「未開」です — って？ いえ、いえ、これも間違いです。「文化」の反対語は、「武化」です。「武化」とは聞き慣れない言葉ですが、「文武両道」の「武」です — と言ったのはスポーツ評論家の玉木正之さんです。これは、NHKの文化講演会で聞いたお話でした。「なるほど」とおもいました。

言葉と暴力

あとは、私の解釈ですが、「文で相手を同化させる」というのが「文化」の本当の意味でしょう。「文」とは、言葉であり、文字です。すなわち、「文化」とは、会議や議論によって言葉で相手を説得して、自分の考えや主張に「軟化」させることであり、契約や法律や憲法や条約という書面によって、相手を自分の領域内に「同化」させることです。それでも、言うことを聞かなければ、「ゴツン」とゲンコツで頭を叩いて、「言うことを聞け！」と行って服従させることになります。これは、ゲンコツという武器を使って、相手を「軟化」させ、「同化」させるので「武化」といいます。相手を服従させるには、この「文」と「武」の二つがあるのです。 ああ、もう一つありました。「お金」です。「金化」と言う言葉はありませんが、実際にはあります。「金は口ほどものを言い」と言う諺がありますから、「金化」は「文」に入りそうです。でも、「お金でほっぺたを張る」という言葉もあるように、「お札(さつ)」や「金貨」や「小切手」はモノ＝武器なので「武力」の一つに数えられますから、これも「武化」です。

歴史は剣よりも強し

子供の虐めでも、言葉で説得できなくなると、最後にはゲンコツになります。国家間の争いも、お互いに説得するだけの公平な理由や正義や利益が見つからないと、結局、武力による「武化」に訴えて、戦争になります。言葉が通じ合わない動物同士の争いはいざ知らず、人間同士のあいだの争いは、会議や条約による「文化」によって解決されるべきです。とはいえ、自国の首都名「キエフ」を相手国の使う名称であるからと言って、国際会議で「キーフ」とよぶことに変化させても、問題は解決しません。いくら世界中の首相や大統領や国家元首たちがニューヨークに集まって異を唱えても、現地の路上にいるわがままな敵の戦車一台には敵いません。では、「ペンが剣よりも強し」

(英: The pen is mightier than the sword.) はウソでしょうか？ イギリスの小説家で牧師でもあったロバート・バートン (1577-1640) は、「ペンの一撃は剣の一撃よりも深い。それゆえに、ペンは剣よりも残酷であることは明白である」の言葉の方が分かり易いでしょう。この場合の「ペン」は新聞や放送の時事的な「文」ではなくて、歴史という「記録」のことだと言っていいでしょう。いまのロシアの元首は、ネロやヒトラーと同じ歴史上の極悪人として、未来永劫、名を残すことになりました。当人や先祖や子孫にとっては、残酷な話です。むろん、殺害された市民にとっては、もっと残酷な話です。ここで、名言を一言 — 「お伽話は、ドラゴンの存在を教えるものではない。そんなこと、子供たちは知っている。ドラゴンは倒すことができる、とお伽話は教えるのだ」(G.K.チェストン)。

「理系」の問題

さて、もう一つ、問題です — 「1足す1は、なぜ、2なのですか？」「1足す2は、なぜ、3なのですか？」。この問題は、いくら頭の良いあなたが考えてもわからないでしょう。答は、「そう、決めたからです」。「1足す1は2としよう。1足す2は3としよう」と、あるとき、だれかが決めたのです。ああ、そうでした、その前に、「一つを1としよう、二つを2としよう、三つ

を3としよう……」とあって、1から9までの呼び方と数字を決めました。この決め方は、1から9まで、九つとも呼び方と書き方がすべて違っていれば、それがなんであっても。1と2が入れ替わっても、6と9が逆さまにならなければ、いいのです。だれでも、算数や数学を学ぶ前に、この数字の呼び方と型を覚えなければなりません。算数や数学が、暗記物だと言われるのはそのためです。

奇数と偶数はどちらが多い？

ついでに、理系のひとのために。問題をひとつ — 「奇数と偶数はどちらが多いですか？」。「答え：それは、どこで切るかで違います。最初の1で切れば奇数が多いし、最後を偶数で切れば数は同じです。無限大にすれば勝負なしです」と仰るでしょう。いえいえ、そんな一つやおなじや勝負なしなどという、姑息で、小さな違いではありません。圧倒的に、偶数の方が多いのです。奇数に2を掛けてごらんください。数字はすべて、偶数になるでしょう。ほら、偶数が勝って、奇数の完敗です。Q.E.D. (q.e.d. = quod erat demonstrandum : which was to be demonstrated. 証明終わり)。

えっ、なんですか？ なぜ、「2を掛けるか」ですか？ 文句があるなら、こんどは偶数に、3でも、5でも、お好きな奇数を掛けてごらんください。ほら、すべて、偶数になるでしょう。Q.E.D. (笑い)

無限大の問題です

もう、一問、挑戦したいって？

では、無限大の問題です。

次の数式を証明しなさい。

$$S = \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{16} + \frac{1}{32} + \dots = 1 \quad \text{.....} \quad \textcircled{1}$$

すこし、難しいかな？

これは、まず、両辺に $\frac{1}{2}$ を掛けます。

$$\frac{1}{2}S = \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{16} + \frac{1}{32} + \frac{1}{64} + \dots = \frac{1}{2} \quad \text{.....} \quad \textcircled{2}$$

式①から式②を引きます。すると、 $\frac{1}{4}$ 以降がすべて消えます。

$$\frac{1}{2} S = \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{16} + \frac{1}{32} + \dots = \frac{1}{2} \quad \text{.....} \quad \textcircled{3}$$

$$\frac{1}{2} S = \frac{1}{2} \quad S = 1 \quad \text{.....} \quad \text{Q.E.D.}$$

どうです、とてもきれいでしょ。これなら、無限大がどこまでいっても消えるのです。

黒ウサギの卵は、なに色か？

それでは、最後に、文系と理系の方に問題です —

「黒ウサギの卵は、なに色ですか？」。

答は、「白」「黒」「そのほか」の三択にしましょう。

「ハイ、あなた」

「ウサギは、哺乳類なのでタマゴは産みません」

「ハイ、正解です。あなたは、理系でしたね。ほかに、文系の方で、ほかの答はありませんか？」



実は、私が文系の方の答えを期待したのは、今日は、4月17日で復活祭です。復活祭で、信者たちは、ウサギの金色のタマゴでお祝いします。これを、「イースター・エッグ」(Easter egg) といって、中はチョコレートです。復活祭には、ウサギもタマゴを産むのです。復活祭は、磔刑(たっけい:はりつけの刑)で殺されたイエスが復活したのをお祝いする日なのです。それで、ウサギの玉子をお祝いとしてお互いに贈りあうことにしたのです。

でも、なぜ、玉子を産まないウサギを選んだのでしょうか？ それは、イエスが復活したからです。一度死んだ人は二度と生き返らないのに、イエスは生き返りました。奇跡です。玉子を産まないウサギが玉子を産むのも奇跡です。ウサギは沢山子供を産むので、多産の象徴として選ばれました。理由は、玉子を産むか産まないかは、この際、産まない方が奇跡なので、わざとウサギが選ばれたのでしたね。また、玉子の色を金色にしたのは、すべての最高の位を現す色が金色だからです。

事実は真実の敵

聖書の「イエスの物語」は「処女懐妊」に始まって、最後の「復活」まで、「奇跡の物語」がつづきます。「奇跡が素晴らしいのは、それが、実際に起きることだ」と例のG.K.チェスタトンはいいました。それで、チェスタトン風に言うならば、「イエス伝は奇跡で出来ている — そんなことは子供でも知っている。セルバンテスがいうように『事実は真実の敵なり』(英: Facts are the enemy of truth.) とイエス伝は教えているのだ」。

ウサギの卵は、理系の事実を越えた、文系の真実のお話です。 Q.E.D.

都築正道